



参考資料

- 1 都市計画マスタープランの改定体制
- 2 用語集

1 都市計画マスタープランの改定体制

(1) 庁内体制

【部長会議】

役割：都市計画マスタープランの基本方向、基本方針を作成する。

構成：正副市長及び各部長で構成する。

【次長課長会議】

役割：施策の検討や部署間の連携・調整を行う。

構成：関係課長で構成する。

(2) 苫小牧市都市計画マスタープラン改定検討委員会

役割：素案の中で、まちづくりに関する課題や目指すべきまちの将来像などについて、各界からの幅広い意見と提案を反映する。

構成：学識経験者及び有識者で構成する。

[委員] 学識経験者（都市計画、公共交通、建築）及び有識者（農業、経済、福祉）／6名

区分	氏名	所属	職名	備考
学識経験者	◎田村 亨	北海商科大学	教授	都市計画
学識経験者	下々村 光弘	苫小牧工業高等専門学校	教授	公共交通
学識経験者	内海 佐和子	室蘭工業大学大学院工学研究科	准教授	建築
有識者	丹羽 秀則	苫小牧市農業委員会	会長	農業
有識者	宮本 知治	苫小牧商工会議所	会頭	経済
有識者	柳谷 昭次郎	苫小牧市社会福祉協議会	会長	福祉

◎：委員長

【開催概要】

	日時	テーマ
第1回	平成28年(2016年)10月19日(水)	・都市計画マスタープランの改定に係る方針について ・将来都市像と骨格・構造について ・市民意向調査について
第2回	平成29年(2017年)5月31日(水)	・市民意向調査結果について ・分野別方針について
第3回	平成29年(2017年)8月24日(木)	・地域別構想について
第4回	平成30年(2018年)12月19日(水)	・地域別懇談会結果について ・第2次都市計画マスタープラン(案)について

(3) 苫小牧市都市計画審議会

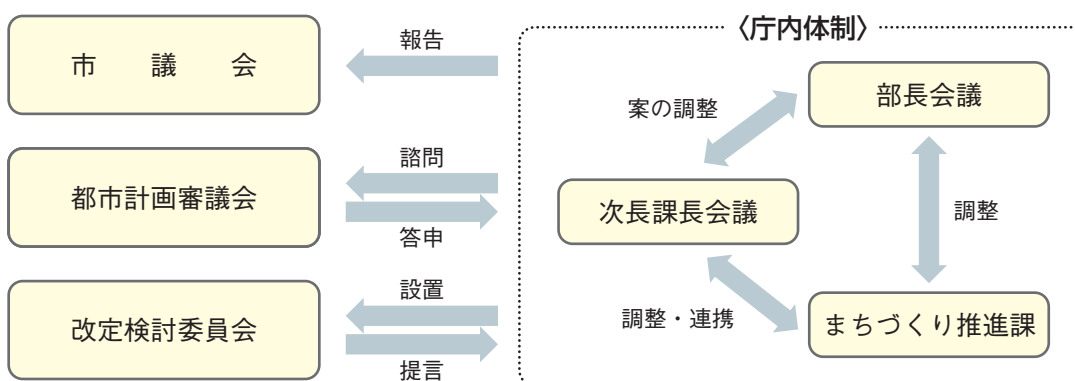
役割：市長が諮問する都市計画マスタープラン改定案に対して審議を行い、答申する。

構成：市議会議員、学識経験者及び市民意見の代表者で構成する。

〔委員〕市議会議員（4人）、学識経験者（5人）、市民意見の代表者（6人）／15人

【開催概要】

	日 時	議事内容
第 104 回	平成 31 年(2019 年)1 月 16 日(水)	事前審議
第 105 回	平成 31 年(2019 年)3 月 19 日(火)	本審議



(4) 市民アンケート調査

市民の意見を計画策定の参考とするため、無作為に抽出した 3,000 名を対象にアンケート調査を実施しました。

【調査概要】

対 象	苫小牧市内に居住する 18 歳以上の市民
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収
回 答 期 間	平成 28 年(2016 年)11 月 9 日(水)～11 月 25 日(金)
配 布 数	3,000 票
回 収 数	1,125 票(回収率 37.5%)

【アンケート項目】

- I 回答者属性（性別・年齢、家族人数、職業）
- II 現在の住まいの状況（住んでいる地域、目的別外出頻度と外出先、主な交通手段など）
- III 苫小牧市におけるまちづくりの評価（満足度と重要度、苫小牧市のイメージ色）
- IV 住まいの動向（現在の居住地を選択した理由、住み続け意向、住替えたい理由）
- V これからの苫小牧市のまちづくり（行政サービスの水準、中心市街地、公共交通について）
- VI 苫小牧市のまちづくりに関するご意見（自由意見記入）

※調査結果は、「資料編」をご覧ください。

(5) 地域別懇談会

「苫小牧市都市計画マスタープラン」について、広く市民の方々に周知を図るとともに、各地域の市民にとって身近な「地域別構想」について、地域ごとに意見を頂き、都市計画マスタープランへの意見収集を図りました。

【開催概要】

日 時	平成 29 年（2017 年）11 月 20 日（月） 18：00～20：30			
会 場	苫小牧市役所 9 階 会議室			
参 加 者	西部西地域 9 名	西部東地域 12 名	中央部西地域 4 名	中央部中地域 5 名
	中央部東地域 6 名	東部西地域 3 名	東部東地域 6 名	合 計 45 名



※地域別懇談会の結果は、「資料編」をご覧ください。

(6) パブリックコメント

「第2次苫小牧市都市計画マスタープラン」を策定するにあたり、市民の皆様からの意見を募集するため、平成30年度（2018年度）にパブリックコメントを実施しました。

【実施概要】

意見募集期間	平成 31 年（2019 年）1 月 28 日（月）～2 月 26 日（火）
資料の入手方法	市のホームページからダウンロード、または以下の公共施設で入手 <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり推進課（市役所 8 階） ・市民情報コーナー（市役所 2 階） ・各コミュニティセンター（のぞみ・豊川・住吉・沼ノ端） ・COCOTOMA ・沼ノ端交流センター ・勇払出張所 ・植苗ファミリーセンター
意見の提出方法	電子メール、ファックス、書面の持参又は郵送

【あ】

アダプトプログラム [P29] :

市民と行政が協働で進めるまち美化プログラムのこと。アダプト (ADOPT) とは英語で「〇〇を養子にする」の意味。一定区画の公共の場所を養子にみだて、市民がわが子のように愛情をもって面倒をみ(=清掃美化を行い)、行政がこれを支援する制度。

苫小牧市においては、「トマコマイクリーンアップ・サポーター制度」を設け、平成 29 年時点で 37 団体・3 個人 1,870 名が加入し、主にパークゴルフ場や街路・公園などの清掃が行われている。

エリアマネジメント [P16] :

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などによる主体的な取組をいう。快適で魅力的な環境の創出や美しい街並みの形成による資産価値の保全・増進などに加えて、ブランド力の形成や安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティ形成、地域の伝統・文化の継承など、ソフトな領域のものも含む。

オープンスペース [P27] :

敷地内で、建築物が建っていない空地で、一般の人々に開放された空間。

【か】

可住地面積 [P23] :

市街化区域の面積から非可住地（工業専用地域、臨港地区、特別工業地区に指定される地域及び道路、河川・湖沼、公園緑地など）を除いた「居住可能な土地」の面積。

かわまちづくり [P56] :

河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地域住民と河川管理者の連携の下、実現性の高い水辺の整備・利用に係る取組。

グリーンツーリズム [P28] :

みどり豊かな農山漁村でゆっくりと滞在し、訪れ

た地域の人々との交流を通じて、その自然、文化、生活、人々の魅力に触れ、農山漁村でさまざまな体験などを楽しむ余暇活動のこと。

高次都市機能 [P26] :

行政機能、商業機能、医療機能、教育機能、文化機能など、周辺市町村からの利用も対象とした、質の高いサービスを提供する機能。

コージェネレーション [P61] :

天然ガス、石油、LP ガスなどを燃料として、エンジン、タービン、燃料電池などの方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収するシステム。

コミュニティガーデン [P73] :

地域住民が主体となり、地域の中に共同で造成・維持管理する庭や花壇のこと。

コレクティブハウス [P38] :

それぞれが独立した専用の住居と、リビングや食堂などの共用空間を持ち、皆が集い、食事をするなど、生活の一部を共有するような住まい方の住宅。

【さ】

シビックプライド [P39] :

市民が都市に対してもつ誇りや自負、愛着のこと。

生活関連施設 [P48] :

駅や病院、官公庁施設、福祉施設など、高齢の方、障がいのある方などが日常生活等において利用する一定規模以上の施設のことで、苫小牧市では「苫小牧市バリアフリー基本構想（平成 28 年（2016 年）3 月）」において、全 33 の旅客施設、官公署、文化・運動施設、医療・福祉施設、都市公園、郵便局、商業・宿泊施設を設定している。

【た】

都市的土地利用 [P36] :

都市生活または都市活動を営み、住宅地や工業地、商業地、公園など市街地として利用する土地のこと。

【は】

パークマネジメント [P28] :

住民・NPO・企業・行政が連携しながら、総合的かつ戦略的に公園全体と公園施設の一体的な管理運営を行う仕組みを導入し、住民・NPO・企業の柔軟かつ優れたアイデアや活力により、新たな魅力の創出を図ること。

バスロケーションシステム [P50] :

GPSなどを用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板や携帯電話、パソコンに情報提供するシステム。

パブリックスペース [P26] :

不特定多数の人が利用できる公共性の高い空間。

BCP [P58] :

Business Continuity Plan（業務継続計画）の略。災害時に特定された重要業務が中断しないこと、また万一事業活動が中断した場合に目標復旧時間内に重要な機能を再開させ、業務中断に伴う顧客取引の競合他社への流出、マーケットシェアの低下、企業評価の低下などから企業を守るための経営戦略のこと。バックアップシステムの整備、バックアップオフィスの確保、安否確認の迅速化、要員の確保、生産設備の代替などの対策を実施する。

プロムナード [P121] :

フランス語 (promenade) で「散歩」あるいは「散歩道・遊歩道」を意味し、ここでは歩行者が安全で快適に歩くことができる散策道のことを指す。

分節型・集約型都市構造 [P15] :

人口減少・高齢化が進む中、基幹的な公共交通の軸上に集約拠点の形成を促進し、行政や医療・福祉、商業など、生活に必要な各種機能の集積を図り、地域公共交通ネットワークとの連携により、日常生活が身近な地域で可能となるコンパクトな都市構造のこと。

ポートサービス [P51] :

港湾で受けることのできる港湾運送、通関、倉庫、船舶代理などのサービス。

【ま】

MICE [P28] :

企業などの会議 (Meeting)、企業などの行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会などが行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称のこと。

モビリティ・マネジメント [P19] :

1人1人のモビリティ (移動) が、社会的にも個人的にも望ましい方向 (過度な自動車利用から公共交通を適切に利用するなど) に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策のこと。

モーダルシフト [P50] :

人や貨物の輸送手段を転換することをいう。旅客においては、自家用車から環境負荷の小さい鉄道・バスなどの公共交通機関へ転換することを指す。

【や】

ユニバーサルデザイン [P17] :

あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種などに関わらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

【ら】

リダンダンシー [P45] :

「冗長性」、「余剰」を意味する英語であり、国土計画上では、自然災害などによる障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様な性質を示す。

RORO 船 [P94] :

主に貨物運送に用いられる、トレーラーシャーシや商品車を自走により積み卸しする荷役方式の船舶のこと。Roll-On Roll-Off 船。



第2次 苫小牧市都市計画マスタープラン

発行：2019年4月

編集：苫小牧市総合政策部まちづくり推進室まちづくり推進課

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号

電話：0144-32-6054

URL：<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/>

